

北九州市 観光振興 プラン

概要版

「暮らす人」「訪れる人」が、
ともにわくわくする観光・交流都市

ゲストとして迎え、友人として送り出そう



1 観光振興プラン改訂にあたって

1 観光振興プラン改訂の目的

- 新型コロナウイルス感染症による観光をめぐる状況の変化
- 持続可能な社会・観光への関心の高まり、デジタル化・マイクロツーリズムなどの広がり

➡ こうした変化を踏まえ、①北九州市の観光振興に関する基本的な方向性
②宿泊税の活用指針 を示す

2 北九州市の未来に向けた観光・交流の役割

(1) 観光・交流とともに発展する北九州市

- 世界遺産、日本遺産、「日本新三大夜景都市」全国一位など、多くの魅力を保有
- 企業、学術研究機関、文化拠点、スタジアム、MICE拠点などの施設
- 全国で初めて選定された「SDGs未来都市」によって生まれる、教育旅行や視察旅行
- 今後の観光資源として期待されている若松区響灘での洋上ウインドファーム

(2) 関係人口、定住人口の創出につながる観光・交流

- 観光に対するニーズの変化
「観光名所を見に行く」⇒「そこで何ができるのか」⇒「現地での交流、体験、学びを楽しむ」
- 北九州市の多様な魅力に惹きつけられた「訪れる人」と「暮らす人」が交流し、北九州市のファンを増やし、ひいてはそれが関係人口、定住人口の増加につながる

2 コロナ禍を経た観光の変化

1 日本国内の観光の状況

- 法務省「出入国管理統計」によると、訪日外国人旅行者数は、令和元(2019)年3,188万人から、令和3(2021)年25万人と大きく減少
- 観光庁「旅行・観光消費動向調査」によると日本人国内旅行者数は、令和元(2019)年58,710万人から、令和3(2021)年26,821万人と半減以下

2 北九州市の観光の状況

- 令和2(2020)年の北九州市の観光客(延べ人数)は、令和元(2019)年に比べ約60%減少
- 令和3(2021)年は底堅いビジネス需要と北九州市独自の支援策などにより、わずかな回復の兆し
- 分野別では、SDGs修学旅行などの取り込みの結果、修学旅行生数が令和3(2021)年で対前年比123%増加

図 北九州市の観光客数(延べ人数)の推移



図 分野別観光客数の推移



5 目指す姿・基本方針

1 目指す姿

「暮らす人」「訪れる人」がともにわくわくする観光・交流都市
～ゲストとして迎え、友人として送り出そう～

2 基本目標

- ① 「夜景」「門司港レトロ・城下町小倉の歴史文化」など北九州市がこれまで育んできた魅力を一層向上
- ② まずは周辺都市圏域約400万人のマイクロツーリズム需要の取り込み
- ③ 加えて本市宿泊客の約7割を占めるビジネス客が、もう一か所、もう一泊を楽しむ「プラスワン観光」の魅力を提供

〈観光の好循環〉

- ① 北九州市の多様な魅力を一層磨き上げる
- ② 「暮らす人」が北九州市にさらに愛着を持ち、誇りを感じる
- ③ 「暮らす人」が誇りに感じたその魅力を発信し続けることで、北九州市の認知度が向上し、「訪れる人」が増える
- ④ 「訪れる人」が増えることが「暮らす人」の一層の愛着・誇りにつながるという「観光の好循環」をつくり、地域経済の活性化に貢献する観光・交流都市を目指す

北九州市観光振興プランが目指す観光の好循環



6 取組期間とKPI

1 取組期間 5年間(令和5年度～令和9年度)

- 取組期間前半(3年間)で、各指標がコロナ禍前の水準以上になることを目指す
- 取組期間後半(2年間)のKPIは、前半の取組状況などを踏まえて再設定

2 KPI (重要業績評価指標)

	コロナ禍前(R元年)	現時点(R3年)	目標(R7年時点)	計画期間満了時(R9年時点)
観光客数(延べ人数) ^{※1}	2,420.8万人	1,105.3万人	3,000万人	取組期間前半の取組状況などを踏まえ再設定
宿泊客数 ^{※1}	192.9万人	124.6万人	240万人	
観光消費額 ^{※1}	1,345億円	399億円	1,700億円	
市民の満足度 ^{※2}	——	65.7%	75%	

※1 観光客数、宿泊客数、観光消費額は北九州市観光動態調査による

※2 市政モニターアンケートにおいて、「あなたの目から見て、北九州市は魅力的な観光地であると思いますか。」という問いに対して「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合の合計(「現時点65.7%」は令和4年度調査結果によるもの。)

観光におけるSDGsの推進 (関連するSDGs)

